

これからの学校教育 実践事例

育成した資質・能力を生徒自身が汎用し、 地域・世界とつながる教育活動を実践

広島県立広島叡智学園中学校・高校

新しい教育モデルの構築を目指す「広島版『学びの変革』アクション・プラン」を先導的に実践する学校として、2019年4月に、広島県立広島叡智学園中学校・高校が開校。新たな価値を創造する資質・能力の育成に取り組む同校の「今」と「これから」を伝える。

今、何ができるのか、
次に、何をすべきなのかを知る

広島県立広島叡智学園中学校・高校は、2020年度に2期生が入学し、中学1・2年生が寮生活を送りながら、「『よりよい未来』を創造できるリーダーの育成」というビジョンの下、育成を目指す資質・能力を掲げて、その実現に向けた教育活動に取り組んでいる(図1)。全国から志願者が集まり、入試が高倍率になったことは、学校の理念が保護者の共感を得たからではないかと、福嶋一彦校長は語る。

「新型コロナウイルスの感染拡大は、未来の予測は困難であるという事実を、改めて私たちに突きつけま

図1 重点的に育成を目指す5つの資質・能力

- ◎様々な場面で活用できる知識・技能の深い理解
- ◎新しい価値を生み出す創造的・批判的思考力
- ◎異なる文化・価値観を持つ人々と協働する力
- ◎目標に向かってやり抜く力・自信
- ◎日本語でも英語でも議論・協働できる高い語学力

*学校案内より抜粋。

したが、本校が育成を目指す5つの資質・能力は、まさにそうした状況に向き合う際に必要な資質・能力だと思っています」

同校は、国際的な教育プログラム

である国際バカロレア(IBC)の中等教育プログラム(MYP 11~16歳対象)及びデイプロマ・プログラム(DP 16~19歳対象)の候補校でもある。現在、中学1・2年生に、MYPの枠組みで、「言語と文学」「個人と社会」「理科」「数学」「デザイン」など、8教科群の授業を、学習指導要領に準拠する形で展開している。各教科では、評価の規準となる目標と、学びのプロセスの中で身につけるべきコミュニケーションスキルなどの「汎用スキル」が示され、教師、生徒双方がそれらを共有した上で授業に臨んでいる(写真1)。評価の工夫点について、MYPコーディネーターの古市吉洋先生は次のように語る。

「目標について、各授業や活動でどの程度達成できているのかを、振り返りを重ねることで可視化し、次の授業や活動につなげています。本校では、定期考査は行っておらず、評価は、レポートや作品制作、プロセスジャーナルなど、複数の課題への取り組みを通じて学年成績を出します(写真2)。それぞれの課題では、ルーブリックが示されるので、生徒は学習と評価を通して、今の自分が何ができて、何ができていないのか、次は何をすべきなのかを意識することができず。教師も、日々の授業で『お互いに意味のあるフィードバックを心がけて、コミュニケーションスキルを高めていこう』などと、生徒が汎用的なスキルと授業中の具体的な活動とを結びつけられるような声かけを行いながら、それら

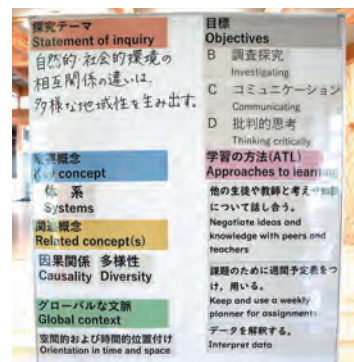


写真1 単元の目標などは、教室の入り口に置かれたホワイトボード上にも掲示される。

を様々な場面で発揮できるような授業づくりに取り組んでいます」

育成された資質・能力を 地域・世界で発揮する

資質・能力の育成において重要な役割を果たしているのが、「総合的な学習の時間」に相当する「未来創



校長
福嶋一彦
ふくしま かずひこ
教職歴36年。同校に赴任して1年目。



教頭
大島美紀
おおしま みき
教職歴25年。同校に赴任して3年目。



MYPコーディネーター
古市吉洋
ふるいち よしひろ
教職歴13年。同校に赴任して3年目。

広島県立広島叡智学園中学校・高校

◎「学びを通じて平和な社会づくりを実現し続ける存在となることを目指す」をミッションに掲げ、瀬戸内海にある人口およそ7000人の大崎上島に開校。英語教育に力を入れるとともに、すべての教科で協働的なProject Based Learningを導入している。

◎設立 2019（平成31）年

◎形態 全日制／普通科／共学

◎生徒数 1学年約40人（22年度には、高校1学年に20人の留学生を迎える）

◎URL <https://higa-s.jp/>

造科」だ。週約3単位時間が割り当てられ、生徒は自ら課題を設定し、課題解決に向けて協働的に取り組む。大島美紀教頭は、「未来創造科」での生徒の成長を次のように語る。

『「Well-being」「Environment」

『Global justice』の3つのテーマに基づき、生徒は課題意識を持って課題解決に取り組みながら、探究していきます。昨年度は、インターンシップやインタビューなどを通して地域の方々とかかわりながら、様々な幸せの形に触れたり、生徒の目線で見つけた地域課題にどのように取り組むのかを考えて提案したりしました。自作のSDGsのポスターを掲示したり、海岸清掃を企画したり（写真3）と、授業で身につけた資質・能力を生かして、私たち教師の想像を超えた活動を実践しました。生徒は自分の価値観を揺さぶられながら、学びのサイクルを繰り返し、急速に変化する社会の中でも発揮することができる資質・能力を身につけています」

資質・能力を育むためには、学びを1つの教科、教室の中で完結させず、他教科と結びつけ、実社会に生かす授業づくりを教師が意識することが大切だと福嶋校長は語る。

「ある教科での学びで培った資質・能力を、ほかの教科や地域活動で発揮できるよう意識しながら、本校の教師は日々、生徒に接しています。ただ、生徒の教育活動を支えるのは教師だけではありません。寮生活や校外での活動にかかわる地域の方々も、本校の教育ビジョンに賛同し、



写真2 生徒にレポートを課す際には、ルーブリックに照らし合わせて自分の考えをまとめることを、レポート作成上の留意点として示す。

生徒の学びに参画してくださっています。本校は、これまでの学校の枠組みを超えたラーニングコミュニティを目指しているのです」

写真3 有志の生徒による放課後活動の一環として、学校の近くの大串海岸の清掃活動を実施。大崎上島周辺の海のプラスチックやゴミ問題に意識を向けて次の行動へとつなげていく。

